

蘇陽中学校 2年 小崎 康志郎 議員
1年 田上 翔太 議員

蘇陽地区では、ブルーベリーが特産品であり、ジャム、ソフトクリーム、ジュースといった商品が販売されていますが、生産、加工、販売を一体とした第6次産業化を発展させる事で、農業振興や観光、雇用に活かせるのではないかと思います。農業体験、ジャムやお菓子作りなども取り入れるとよりリピーターを増やす事ができ、蘇陽だけでなくアンテナショップでの販売を行う事で、町をアピールし活性化できると考えます。

農林振興課長
ブルーベリーの加工品につきましては、物産館や熊本や福岡のデパートで販売されています。蘇陽内の観光農園につきましては、3ヶ所が生産、加工から販売まで、6次産業化に取り組まれております。他の農園につきましても、入園料をいただくなど6次産業と同じような取り組みをされています。また、観光や農業振興につきましては、昨年産地訪問ツアーという事で蘇陽の方でジャム作りをやっております。今後も特産品のPRを兼ねているいろいろな取り組みをやっていきたいと思っております。

矢部中学校 2年 山本 翔太 議員
2年 村上 直弥 議員

総合的なスポーツ施設の設置を提案します。現在計画にある町の体育館を作ると同時に人工芝のグラウンドや、気軽に走ることができるランニングコースなども作ってほしいです。また、廃校になった小学校の校舎等を活用した、合宿施設を作ってみてはどうでしょうか。

生涯学習課長
現在新たな体育館の建設を計画中であり、現段階では2022年の完成を目指して準備を進めているところです。ランニングコースにつきましては、併せての整備ができないかと考えているところです。廃校跡地を利用した合宿施設の整備については、遊休財産を合宿施設などに有効に活用することは、少ない費用で多くの効果が得られると考えますので、可能な廃校跡地については、積極的に利用していきたいと思います。スポーツ施設の整備は町民の健康増進や観光面や経済的な点にも効果が得られることや、災害時の避難所施設としても大きな役割がはたせるためしっかり取り組んで行きたいと思います。

矢部中学校 2年 橋本 亜依 議員

山都町は高速道路も開通し、市内からの移動時間も短くなりました。アスレチック施設を作ることで、子育て世代の観光客が増えると考えられます。無料エリアで気軽に遊び山都町の自然の豊かさ、農産物のおいしさなどを知ってもらい、有料エリアで遊んでもらうことで、収入の一部を森林整備費に当てることができ、山都町の自然を守ることに繋がると思います。

山の都創造課長
町では高速道路の開通を見据えて、本町を訪れる多くの観光客や来訪者の受け入れ態勢の整備を行うために、山都町ランドデザインを策定しております。この中で多目的に利用できる広場や、公園の計画を策定しているところです。アスレチック施設についても、併せて計画策定の中で協議していきたいと思います。子育て世代の観光客を増やすことで山都町の物産ですとか、宿泊客を増やすことにも繋がると思います。来訪者の町内での滞在時間を延ばすとともに、住民の憩いの場となるような施設を計画していきたいと考えております。

蘇陽中学校 2年 田上 文哉 議員

空き家を宿泊施設としてリフォームして宿泊できる場所にしてはどうでしょうか。山都町に住むことを希望する人には、住宅として貸し出す等柔軟な使い方ができると更に良いと考えます。高齢化が進み空き家が増える事も考えられます。空き家を魅力ある宿泊施設町営住宅に変え、山都町がいつまでも活力ある町であり続けるよう、空き家の有効活用をぜひお願いします。

山の都創造課長
町では移住定住対策として、「空き家バンク制度」を立ち上げております。空き家バンクとは、「空き家を貸したい人（貸してもいい人）」と「空き家を買いたい、借りて住みたい人」をマッチング（お見合い）する制度です。人口減少の進む本町にとって、空き家の活用は移住定住の有効な手段になっています。古い家屋など改修の必要な物件には「定住支援事業補助金」という補助制度を設けております。また山都町での生活を1年間お試しで体験できる「短期滞在施設」という施設を住宅として整備しています。その他、若い世代の方に定住していただくために宅地分譲地の開発を行っています。

矢部中学校 2年 阪本 莉奈 議員
2年 坂田 頼治 議員

山都町のことをより多くの人に興味を持ってもらえるよう山都塾パワーアップ大作戦 を提案します。地域の方から学ぶことで交流の場にする伝統文化講座と、町の特産物を使った料理作りに取り組み郷土料理教室、そして清和文楽や鮎の瀬大橋などの山都町歴史を学習する山都史学習講座の3つを提案します。

生涯学習課長
現在各学校におきまして、地域学習として伝統文化を担ってる地域の方々にお話を伺い、体験するなどの学習が行われています。教育委員会としまして、山都塾を学校での総合学習の時間などを利用して開催して、地域学習に繋がっているところです。町や各地域や団体でも講座を開設されており、自然観察会や棚田ウォーク、日向往還ウォークラリーなども開催されています。各地域の伝統ある文化などについては、広報やまとで町民に広く紹介を行って行きたいと考えます。それぞれの地域が主体となって子どもたちを対象とした地域学習の場が定着できるようになるような支援も進めていきたいと考えます。

矢部中学校 1年 平野 新造 議員
1年 松本 大蔵 議員

山都町にはベリーちゃんという蘇陽のPRキャラクターがいますが、山都町全体をPRするキャラクター製作を提案します。ゆるキャラを八朔祭に出せば観光客が増えて、町に入ってくる資金が増えます。その資金で八朔祭の費用を増加してもっと観光客を増やしたり、町の発展のための資金に当てたりなどしていけばいいと思います。観光業と町の発展の循環のきっかけとなるようなゆるキャラを作ってほしいです。

山の都創造課長
山都町公認のゆるキャラをというご提案について、町のイベント時にはくまモンに出演依頼を行い集客している場合が多く、旧蘇陽町のベリーちゃんと併せて活用しているところですので、マスコットの案など町のPRに繋がることについては中学生の皆さんからご提案をいただきたと考えてます。中学生みなさんが山都町の街づくりに関わる絶好の機会になると思いますので、色んなご相談には応じますので山の都創造課へお問い合わせいただければというふうに思います。

清和中学校 2年 倉岡 大樹 議員

野菜、栗、お茶など山都町のおいしいものを販売したり、観光や自然をPRするため、高速道路沿いにサービスエリアを設置してみてはどうでしょうか。また、山都町に興味を持ってもらえるよう 県内のサービスエリアに町をPRするためのパンフレットを配布してみてもいいでしょうか。

企画政策課長、山の都創造課長
今回の高速道路開通に併せて宮原サービスエリア、福岡県の広川、基山の上り下りのサービスエリア、また、県内のレンタカー会社にも山都町の観光パンフレットやチラシ・マップ等を設置しているところです。他のサービスエリアにも設置できるように取り組みをしていきたいと思えます。山都町を通る高速道路の区間は通行料が無料なので、インターチェンジに隣接する場所にサービスエリアを設置し、特産品を買うことができたり、おいしいものを食べる事が出来たりと、町中がサービスエリアとなるような整備を進めていくことが必要であると考えています。商店街の方々とも連携し、ドライブや観光の目的地として立ち寄りたくなるような町づくりを進めていきたいと思えます。

清和中学校 2年 倉岡 綾 議員

町内の学校や廃校、地域の体育館やグラウンドを活用して活動場所を確保する事で実施する種目数を増やし、コミュニティバスを利用することで、山都町全体の子供も達が自由に種目を選択して社会体育に参加できるようにしてはどうでしょうか。

指導者の確保については、地域に住む人材の活用や退職した学校の先生の指導者としての活用、更に長期休業などに学生ボランティアを募集するような取り組みをしてはどうでしょうか。

生涯学習課長
山都町では小学生だけでなく中学生も含めて、子どもが希望すれば既存路線の町のコミュニティバスを社会体育に参加するための手段として、今年4月から利用できるように小学校部活動社会体育移行検討委員会などで協議を進めているところです。指導者の確保については、それぞれのクラブで行っており課題があるといえます。スポーツを通じた青少年の健全育成の点からも、ジュニアスポーツクラブが地域に長く根付く活動となるよう、理解と熱意にあふれた指導者の育成や掘り起こしにも力を入れたいと思えます。

蘇陽中学校 1年 井手 友希乃 議員

山都町内のWi-Fiを使う事ができる場所を増やして頂ければと思います。自然災害等に対する備えとして、また情報化社会と言われる現在、さまざまな情報を得る事、スマートフォンやタブレット端末等を上手に活用する事はとても有効だと考えます。蘇陽支所以外の図書館にも設置をお願いしたいと思えます。

企画政策課長
山都町のWi-Fiの整備状況につきましては、観光客が利用する施設や交通拠点において、順次整備を進めているところです。現在、山都町が進めているWi-Fiの整備は、災害時の必要な情報伝達手段を確保するため、役場本庁など21施設で整備中で、平成30年度内には完了予定です。小中学校につきましては、学習用のWi-Fi環境整備を進めています。今回整備するWi-Fiについては災害時にはWi-Fiを一般開放して情報収集に利活用できるような運用を行ってまいりたいと思っております。図書館の清和及び蘇陽の分館については、Wi-Fiの使用は可能となっています。各図書館では情報を検索する為のタブレット等も設置しておりますので、そちらもご活用いただければと思います。

清和中学校 1年 石井 智大 議員

山都町内に昔からある商店街を利用して、新しい観光名所を作ってはいかがでしょうか。昔ながらの町並みや外観をそのまま活かし、老朽化が進んでいる建物も同じような雰囲気を残して再整備し、雑貨や駄菓子、お土産や山都町の産地直送の野菜を販売したり、飲食できるお店や焼き物などの体験が出来る場所を設けたりする事で、若者から親子連れの家族まで楽しめる商店街になると思えます。

山の都創造課長
商店の整備については、商店街ごとに取り組んで頂き、町もサポートする形でにぎわい再生事業補助金とか起業支援事業補助金で建物の改修や設備の整備について支援していきたいと考えております。Wi-Fi環境も町内の公民館、観光施設等に整備されており、SNSを活用した情報発信も可能となりましたので、そうした情報を対外的に発信し、これまで以上に商店街との連携を強化し、新たな観光スポットとして、集客を促す取り組みを進めて参ります。

清和中学校 1年 折尾 萌愛 議員

旧清和村で実施されていた「光害防止条例」を改めて制定してはいかがでしょうか。山都町民全体の環境への意識向上に繋がると思えます。きれいな星空やその星空を住民全員で大切にしている事を全国にPRすれば、山都町に興味を持って行ってみたいと考える人も増えると思えます。今山都町にあるものを大切にしていくものなので多額の費用が必要な訳ではありません。山都町の星空を大切にしていくために「光害防止条例」の復活を提案します。

総務課長
合併前の清和村では、平成5年4月に清和高原天文台をオープンしております。当時清和村では『光源の適正化による星空保全及び資源の節約に関する条例』が制定してありました。村民の方々の生活、生産に必要な光照明を確保しながらも美しい星空を守るために、不必要な光をできるだけ制限しようという目的があったようです。町には、環境に関する課題あるいは政策を議論する場がありますので、まずは提案を行っていききたいと思えます。

蘇陽中学校 2年 杉山 丈一郎 議員

九州横断自動車道延岡線に蘇陽インターチェンジを作ることにについて提案します。昨年度のこの子ども議会でも蘇陽インターチェンジを作りたいという提案をしたところ、矢部から蘇陽間は整備計画事業化までには至っていないため、国や県に強く要望していきたいという回答を頂きました。その後、要望が通り計画がスタートしたのかを教えてくださいたいと思えます。

企画政策課長
昨年子ども議会の中で、蘇陽地区まで高速道路を延ばす予定はあるのか、蘇陽インターを開設してもらえるとう便利になるとのご質問をいただきました。昨年2月には、蘇陽から高千穂の区間について、今後整備を進めるための計画が決定しました。一方、矢部～蘇陽間を含め約33kmは整備の計画がいまだに決まっていない状況です。熊本・宮崎両県及び沿線町村と団結し早期全線開通を強く要望しているところです。1月21、22日にも、関係省庁へ出向き要望活動を行っており、今後も併せて強く要望していきたいと思えます。